

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	132生きる力を育てる義務教育の充実		
施策のねらい(めざす姿)	良好な学習環境の中で、児童・生徒がたくましく生きる力を身につけています。		
基本目標	1「健康で生きがいのある福祉・学習都市」をめざして	施策担当マネージャー	生涯学習部次長
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	マネージャー氏名	笠井 真利子

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	児童・生徒の増加への対応については、学習環境を維持しつつ、学校施設の効率的活用などを検討していく。	③改革・改善内容	特別な支援が必要な児童生徒の増加に対応するため、専門職員の配置等強化を図るとともに、いじめ防止を推進するため、「いじめ防止基本方針」を策定する。また、良好な学習環境の実現を図るため、小中学校のトイレ改修を計画的に順次実施する。
②①に基づく取組み結果	五本松小学校の児童増加への対応については、同小学校の敷地内に普通教室及び特別教室を増設するため、増設工事設計委託を実施した。また、鎌ヶ谷小学校区内の学区変更を行い、同小学校の児童増加に対応するなど、良好な学習環境の維持を図った。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	市内小中学校の児童生徒及び教職員並びに学校施設	意図(対象をどうするのか)	安全安心で良好な学習環境の中で、教職員が新たな学習課題に応じた高い専門性を身につけるとともに、幅広い視野と社会性を兼ね備えて指導にあたり、児童生徒がたくましく生きる力を身につける。
②施策の概要	学校施設の改修や、少人数教育、特別支援教育、情報教育などを推進し、児童生徒の良好な学習環境の実現を目指す。また、研修会や学力調査の実施などにより、専門性と指導力を備えた教職員の育成を図る。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	従来の教科指導、生徒指導に加え、教師としての力量・資質の向上や保護者対応をはじめとした、新たな教育課題に取り組むことが求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27～28年度の施策の成果	少人数教育指導教員、特別支援教育推進指導教員、図書館司書を全ての小中学校に引続き配置するとともに、情報教育を推進するため、全ての小中学校においてコンピュータのリニューアルを実施した。新たな教育課題に対応するため「自主公開助成制度」を創設して、各学校における研究の充実を図った。						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	目標値(32年度)
	i	少人数指導教員配置数	人	14	14	14	14
	ii	特別支援教育推進指導教員配置数	人	16	17	17	14
	iii	不登校児童生徒出現率	%	1.2	1.0	1.4	0.5
③基本事業成果指標	iv	義務教育施設耐震化率	%	100	100	100	100
	i	特別支援教育推進指導教員配置数	人	16	17	17	14
	ii	学校支援ボランティア数	人	684	553	614	現状維持
	iii	教職員研修受講割合	%	100	100	100	100
	iv	改修済み施設数	%	100	100	100	100
	v	スクールカウンセラー相談件数	件	1,567	1,562	1,659	減少
	vi						
	vii						
	viii						
ix							
④施策の事業費	平成27年度決算	平成28年度決算	市民一人あたり事業費(28年度決算)	平成29年度予算			
事業費(千円)	1,572,395	1,119,177	(単位:円)	10,251円 1,245,470			

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	横ばい状態となっている不登校児童生徒出現率を改善するためには、さらなるきめ細やかな相談体制の強化が必要である。		
②総合評価	2概ね達成	③総合評価の理由	全ての小中学校におけるコンピュータのリニューアル化の実施や、学校施設の大規模改修など、児童生徒の快適な学習環境の向上を図ることが出来た。

V 今後の方向性

①成果の方向性	↑ 向上	②コストの方向性	↑ 増加
③特に重点化する事務事業	教育指導に要する経費		
④上記方向性の説明	児童生徒の良好な学習環境の向上のため、不登校児童生徒の減少及びいじめ防止に向けたさらなる取組が必要なため。		